

会員向け学習会が開催されました

9月の勉強会は手話落語家の宇宙亭きららさんと梅田昭子さんをお招きし「子供の笑顔を守るために」のテーマでお話し頂きました。

梅田さんは保育園園長も勤められたベテラン保育士さんで、保育士時代のお話や、ご自分の子育ての経験等を踏まえながら、特別な支援が必要な子供達や家族像を語って下さいました。現在は、手話落語の創始者である桂福団治師匠のお弟子さんで高座に上がる傍ら、学生を対象に手話指導をしたり、昨年のお大市育成会大会でご講演頂いた桂福点さんのコミュニティサロンを手伝っていらっしゃいます。

講演の冒頭で、梅田さんが18歳の頃、保育園の助手として任されたクラスにいた障がいのある子に対して、障がいの知識を持ち合わせていなかったため、何の配慮もできなかったことを今でも悔やんでいると話されました。この事がキッカケでボランティア活動をされていたお父様の影響を受け、ご自身も保育園勤務をしながらボランティア活動を始め、障がいの人と接してきたそうです。

保育園に勤務していた時は、長い集団保育の中で気になる子を何人も見てこられました。若い保育士さんは「早くお母さんに障がいのことを伝えましょう」と言うそうですが、発達専門の先生は「お母さんの気持ちを考えて受容できるまで待ってあげましょう」とおっしゃるそうです。障がいを受け入れるということは成長を諦めるのではなく個人として認めていくことで、親として子供が幸せに生きられるように最大限の努力をすることにより親の役目を果たせると話されました。

今、関わっているコミュニティサロンでは、相談を受ける中で、愛された記憶がないと言う精神障がいの若者に会うそうです。人として社会への適応能力や円滑な人間関係を築くためには、発達の初期段階での「愛着形成」が重要となります。親の子供に対する無償の愛、何があっても受け入れてくれているという実感を得ることで、子供は自己肯定感が満たされ、その後の人格や対人関係が育成されていきます。乳幼児期に愛着形成がうまくなされないと、いつまでも自己認証を求めて強い不安感情のまま生きていくことになるのだそうです。

第2部は即席の高座を作り、手話落語をご披露頂きました。聴覚障がいの方は小さい頃から長い物語を聞く機会が少ない上に、古典落語が使われている言葉が

難しいので演じるのに苦労されるという事でしたが、わかりやすい言葉や短い話にして聞き手の負担にならないよう工夫をしているそうです。この日は手話落語を紹介する際の演目「おなら」と古典落語の「短命」を聞かせて頂きました。きららさんの障がいの人と家族への温かい思いと、聴覚障がいの方の文化に触れることができたように思います。



活動報告(9月16日から10月15日まで)

活動日	内容
9/22	2016 大阪市ふれあい水泳大会 (舞洲障がい者スポーツセンター)
9/25	第57回大阪知的障がい者福祉大会・ 阪南大会(阪南市立文化センター)
10/1	府立難波支援学校 運動会 府立生野支援学校 運動会
10/5	第35回スポーツフェスタ2016大阪 総会
10/6	近畿ブロック育成会連絡協議会 (大阪育成会)
10/8	第35回スポーツフェスタ2016大阪 (ヤンマースタジアム長居)
10/13	大阪市障がい者・高齢者虐待防止連絡会議 (大阪市役所)
10/15	第16回全国障がい者スポーツ大会 大阪市代表選手結団式 (長居障がい者スポーツセンター)

大阪市育成会会員日より

《レクリエーション(本人活動支援)について》 ボウリング教室

- ・日 時：11月26日(土) 13:00~14:30
- ・場 所：桜橋ボウル
- ・定 員：20名
- ・参加費：1,000円(貸靴代含む)
- ・申込締切：11月25日(金)(定員になり次第締切)

《勉強会のお知らせ》

11月は休会です。(大阪市大会に振り替えとなります。)